



繪入 發句

源氏道芝 上





431

源氏



龍田山なる源音のありて疾す此國乃戸
 河をともあへ海より海となれりや
 和河此浦より河に流るるあり此毎らわたりつあり
 色経者乃と海なるまきこれに系更あり言乃系
 若とひいゆるらあり此の里ともひいりくさ
 ひと徳乃のま系河代あり六たりへ一抄源氏地
 語ハ和舟此界一として此國乃ありありあり
 あくは佛法なる元量光佛ともひいありハ世對光
 伝ともひい神道なる宗源の二字より通とらるのれ
 あおもととらる人若舟と神なる記若らるもひい多
 あらうらうらあやあや一記しししししししししし
 とらる此の記らるの記らるも知く言系遠海ありて
 大井河若すもあやらるもあやらるもあやらるも
 ああああああああああああああああああああ
 手代つらるの人もあやまけん源氏小鏡とらるの記

世題号此入字ハわろわろんけさろのぬき周易
 一そいけんぐんろつてい傷あつておんぎさのらん
 乃入字にまへらみ教起ハ二条院の宮上東門院
 先つていふやゆきとらひさせまの宮女あは
 らるれまふよ又作らるてはらてあてまらし
 志さふふ山よありのそいけまといのりすおし
 八月十
 八夜乃月湖水にらつてふれとこまはまにま
 と海つらくはあまるとつらとらつてありは
 てす戸此まらつて今夜ハ八月十五夜なら
 出さつてけつて式アまらんとんの化方ありと



一三三

まらつていふやゆきとらひさせまの宮女あは
 らるれまふよ又作らるてはらてあてまらし
 志さふふ山よありのそいけまといのりすおし
 八月十
 八夜乃月湖水にらつてふれとこまはまにま
 と海つらくはあまるとつらとらつてありは
 てす戸此まらつて今夜ハ八月十五夜なら
 出さつてけつて式アまらんとんの化方ありと

松永貞徳

まらつていふやゆきとらひさせまの宮女あは
 らるれまふよ又作らるてはらてあてまらし
 志さふふ山よありのそいけまといのりすおし
 八月十
 八夜乃月湖水にらつてふれとこまはまにま
 と海つらくはあまるとつらとらつてありは
 てす戸此まらつて今夜ハ八月十五夜なら
 出さつてけつて式アまらんとんの化方ありと

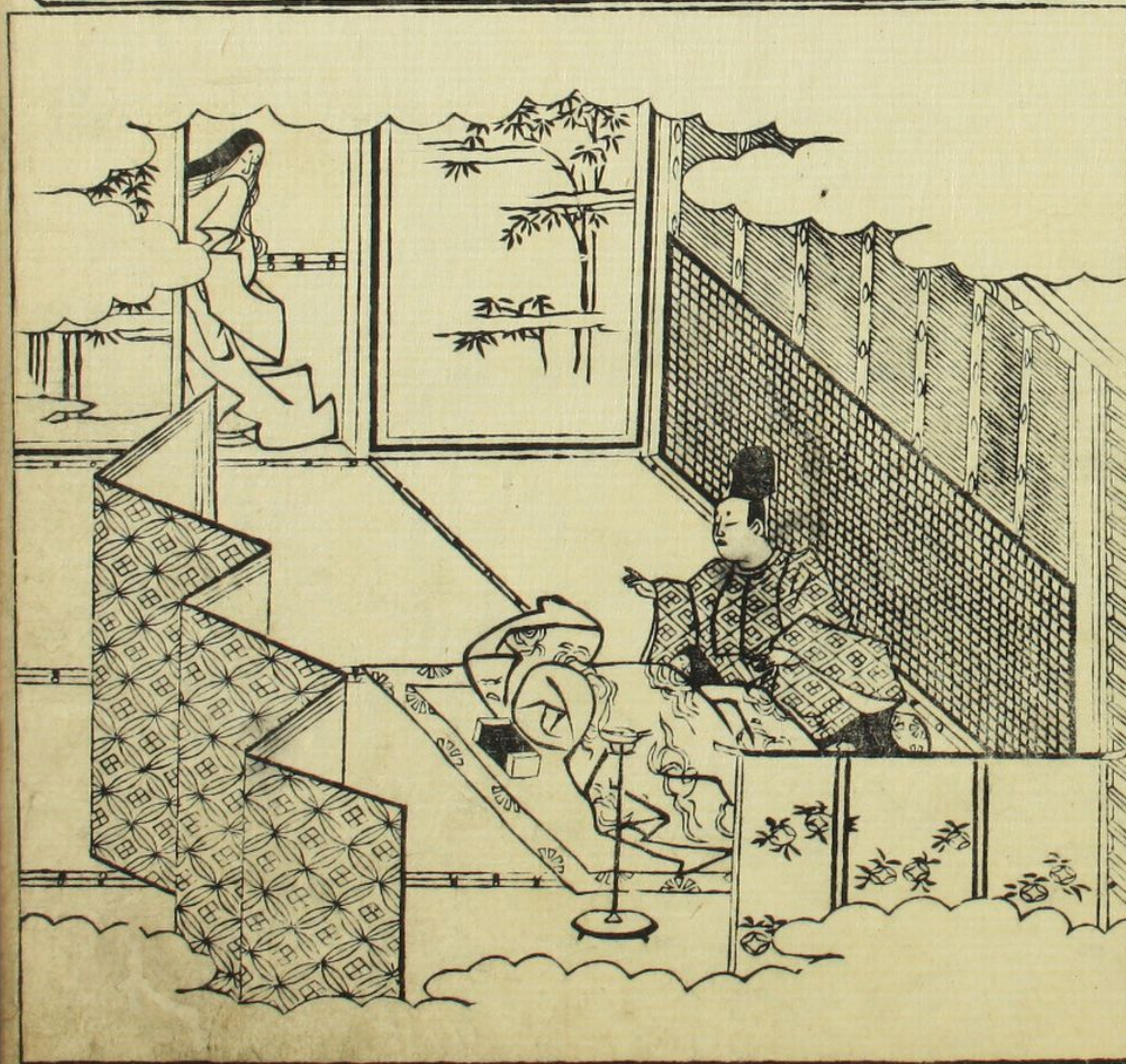


源氏三

二 ちのふみ
 新道の川で高き山を越え
 ついでわきへくさるる里の物
 多けんすにふらふらと
 あまの山をふらふらと
 何とわきへくさるる里の物
 してて方たぐふを待つ
 おりよふけて源氏のい
 の女うらまのいづれか
 志のをもまひしてうら
 まあまのいづれか
 守あめぬあまの
 あつらふらふらと
 りよふけて源氏のい
 の女うらまのいづれか
 志のをもまひしてうら
 まあまのいづれか
 守あめぬあまの
 あつらふらふらと

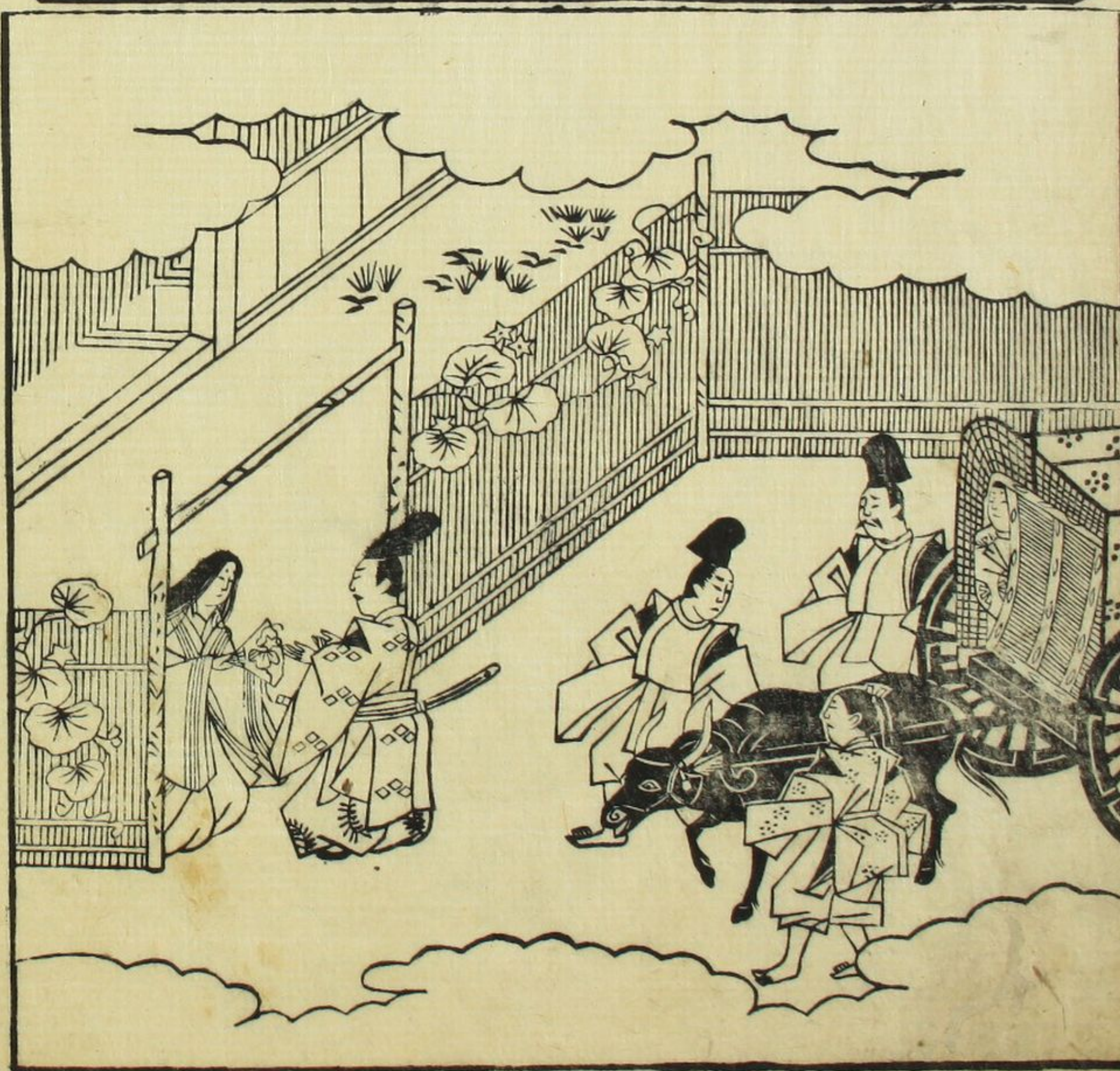


ういせし ちのふみ
 方たぐふの疾乃と
 くあつらふらふらと
 うらまのいづれか
 志のをもまひしてうら
 まあまのいづれか
 守あめぬあまの
 あつらふらふらと



源氏四

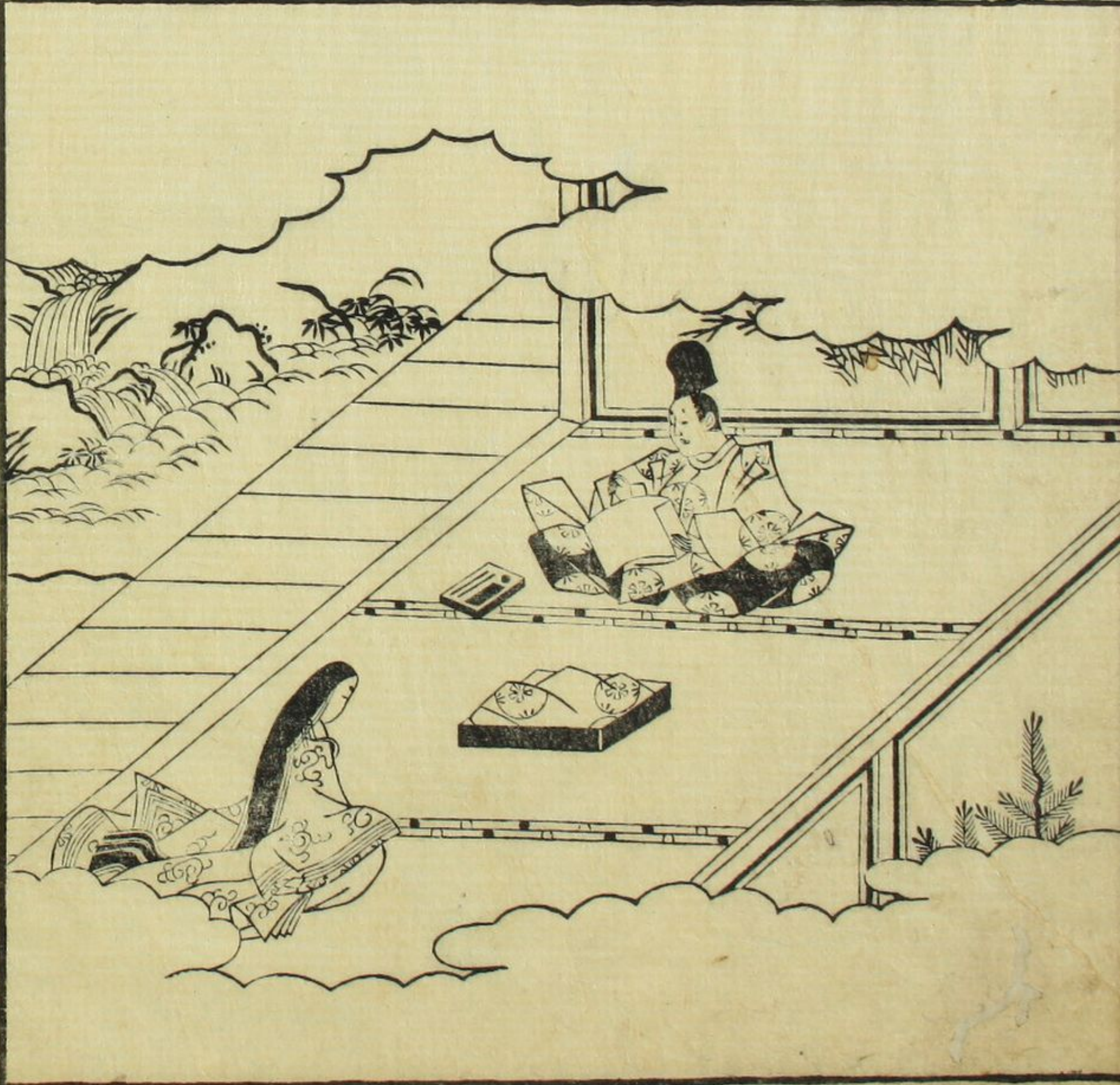
六条のまゝにふたふた
 あらまじいしゆんし
 るくてもせせまふ源
 氏志のそせまふ六条
 るくまにゆつたせふ
 ちりくさげらひら
 小ままもまのれそ
 とそせまふ門ら花を
 折白の籠よまふまを
 せ
 りれ
 よつて
 るくまにゆつたせふ
 とそせまふ門ら花を
 折白の籠よまふまを
 せ
 りれ
 荒本園氏位五位上武
 持
 花やむら
 けり



三
 るくまにゆつたせふ
 とそせまふ門ら花を
 折白の籠よまふまを
 せ
 りれ
 よつて
 るくまにゆつたせふ
 とそせまふ門ら花を
 折白の籠よまふまを
 せ
 りれ
 荒本園氏位五位上武
 持
 花やむら
 けり



すまづび花 あまの 花乃
 ひらけぬをせまひ あは 花
 よひちかたふ人法りあふ
 ひとあはらあふ流花
 流花ひとゆきくさる
 物あふあひのあに花
 くそ色ゆくさるあふ
 あつて花乃 あは 花乃
 まひさるくさるあふ
 あつて花乃 あは 花乃
 すまづび花と花乃
 おまづび花と花乃
 大坂林氏身女長
 夏乃 あは 花乃
 花乃 あは 花乃
 花乃 あは 花乃



四 あは 花乃
 まつたのみ あは 花乃
 院乃 あは 花乃
 ころの十月 あは 花乃
 とりてあ あは 花乃
 あつてあ あは 花乃
 とりてあ あは 花乃
 さいあ あは 花乃
 まひさる あは 花乃
 乃 あは 花乃
 よ あは 花乃
 子剛氏宗畔
 花乃
 花乃
 花乃



源中六

五
 花乃えん
 むのむらじか美のつぎ
 乃ろしは妻大門は
 花乃あはる南殿乃さ
 うららりうそは清
 ありよあくきと流ハ
 こそ待あんとはかり
 ものまはなまは乃のま
 の聖此舞とあはゆ
 東天せらませあまの
 海岱まひまの毛ハ柳
 花乃なり

雜冠井氏令富
 花乃えんよ
 まひぬら
 柳花乃



六
 花乃えん
 むのむらじか美のつぎ
 乃ろしは妻大門は
 花乃あはる南殿乃さ
 うららりうそは清
 ありよあくきと流ハ
 こそ待あんとはかり
 ものまはなまは乃のま
 の聖此舞とあはゆ
 東天せらませあまの
 海岱まひまの毛ハ柳
 花乃なり

博牡丹花末慶友
 物乃あはる
 うららり



七はりの本

六条のこゝろおれおれと
り舟院は存続のり
にまづとまのまじりて船
よはまふまゝとていふ
とて後之れはのこゝろ
来給てはくんとれいひの
新しきとていふとて
しつらひの来りも若
林とていふ所前のこゝろ
とていふ所前のこゝろ
肉とていふ所の
林とていふ所の
いふまゝとていふ
とていふ所の

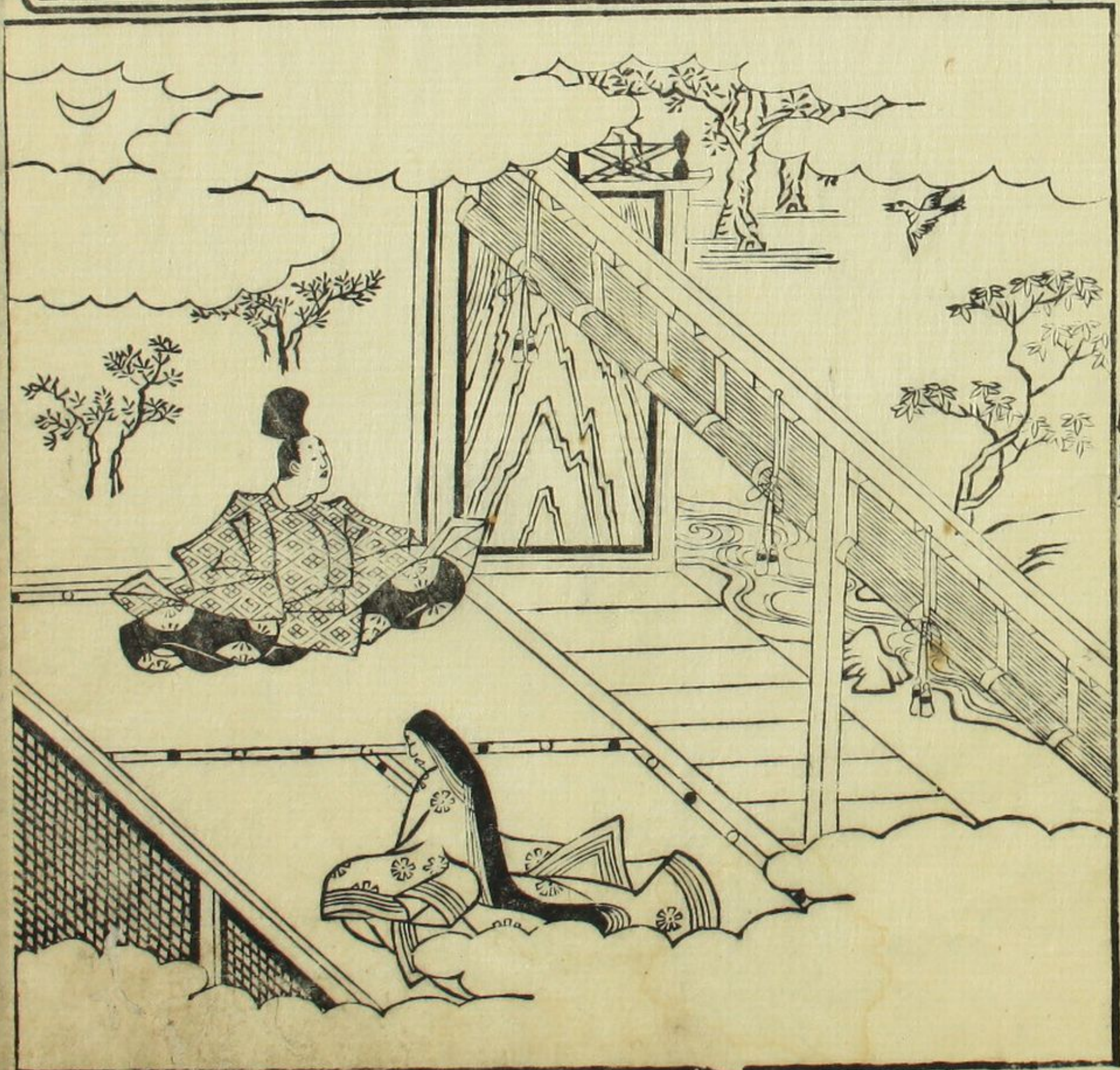
松江氏重頼
とのりて林乃花や
はるのり



八はりの本

源氏中川乃あ
さり人志のそせぬ
ちふたふとてぬん
しとていふ所の
あり舟とていふ
りまのり
あらとれ乃
きとていふ
はるのり
とていふ所の
とていふ所の
石河氏鄙哉
よあはるのりや
花のり

源氏



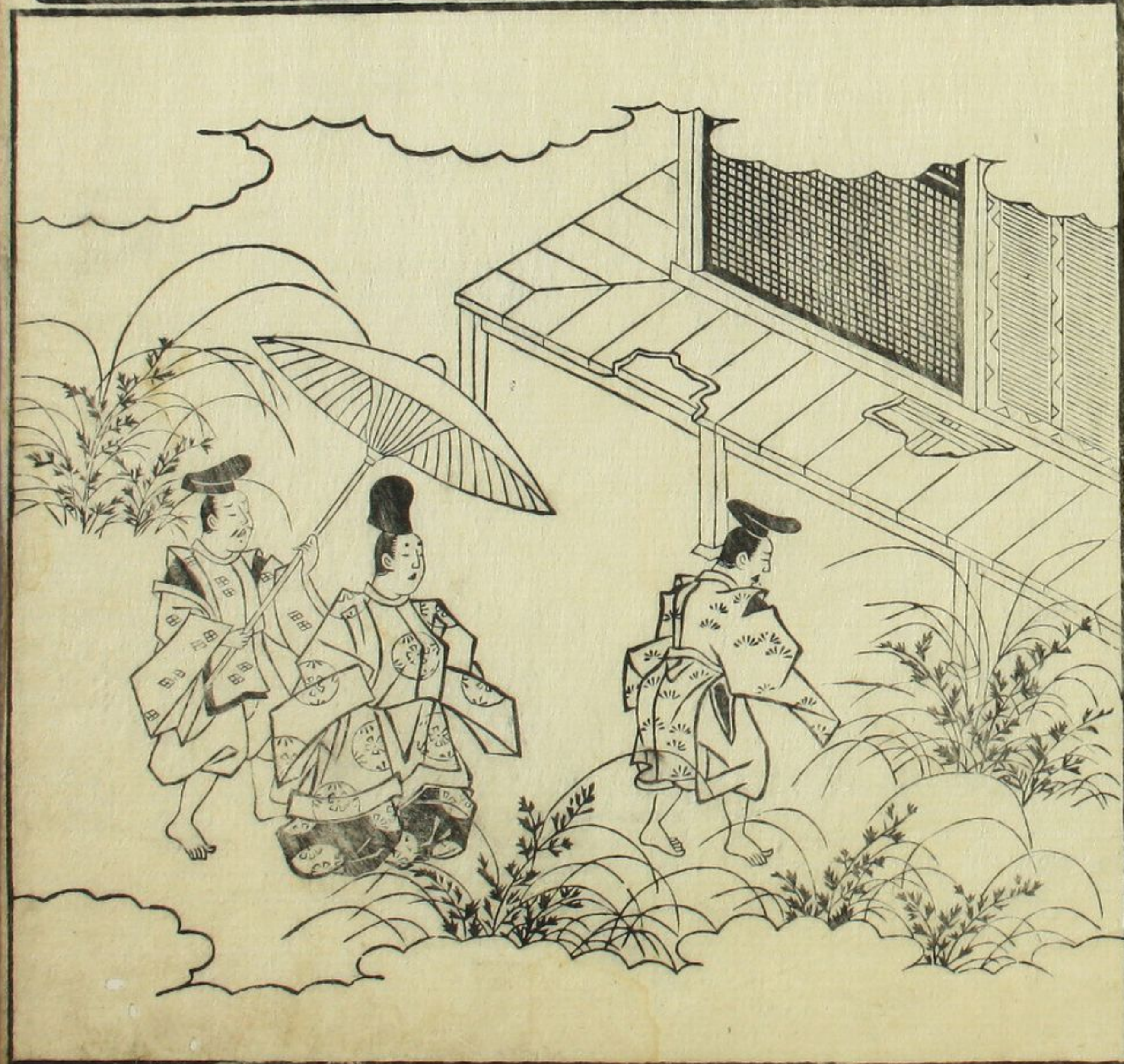
十みとけり
 けしきとつじとま
 敷ありてあまのりも
 つひるはなほりも
 けりあまのりも
 言ゆへに源氏を
 へまわて程あまの
 位位よわつたまわ
 てのまゝとてりも
 けりも位位の新れ
 けりもひよとて秋の
 けりもあまのりも
 けりもひよとてのり

江戸住未得
 難波江の芳鴨の
 舟とけり



十みとつじとま
 敷ありてあまのりも
 つひるはなほりも
 けりあまのりも
 言ゆへに源氏を
 へまわて程あまの
 位位よわつたまわ
 てのまゝとてりも
 けりも位位の新れ
 けりもひよとて秋の
 けりもあまのりも
 けりもひよとてのり

江戸住未得
 難波江の芳鴨の
 舟とけり



源氏十

11084

今日映

持主

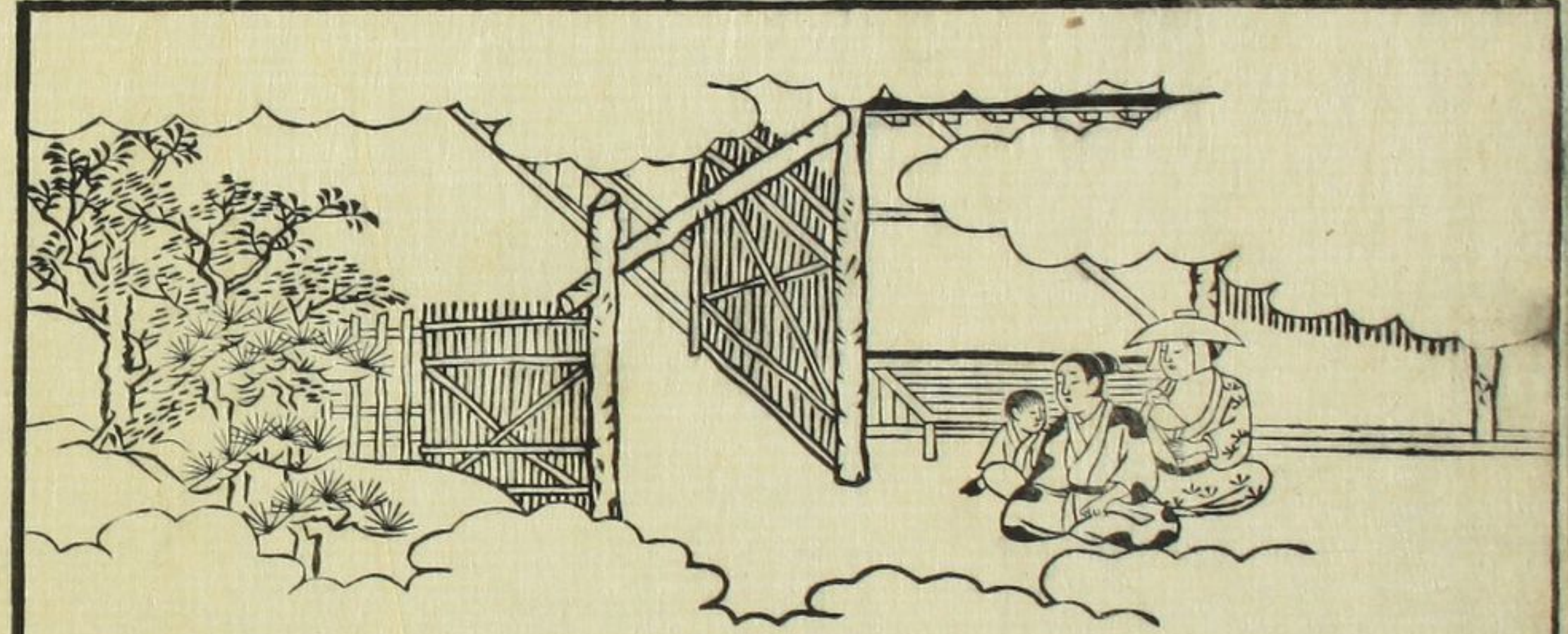
河野右京治

11084

世に在りては
 源氏石山を以て
 昔より世に笑はし
 かのこゝろの女は
 雲月を映して
 て多のつらに
 わひまひりか
 着流のよき物
 らむまのほひ
 天のまのほひ
 昔のほひを
 とるほひを
 ものほひを
 りのほひを

未吉氏道節

時をふらむ



昭和十年九月六日受入

天

安

樂

百條

一

二

三

四

五

六

七